

豆腐づくりに挑戦

第10回恵那の味・伝承講座「豆腐づくり」が、3月11日にアグリパーク恵那で開催され、受講生15人が参加しました。

講師には、武並町の農業女性グループ「むつみマニュファクトリー」の柘植三津世さん、山内小代子さんを迎え、手順とにがりを加える温度など細かく指導。受講生らは「家で作ると結構大変だ」と、話しながら工程を振り返り、出来上がった豆腐を冷やっこに、おからはサラダにして味わいました。



竹の棒を使って煮込んだ大豆を一生懸命絞る受講生

明智小、車いすを寄付



安藤さんへ車椅子を手渡す工藤君と佐々木さん

明智小学校は、PTA環境委員会と児童会福祉委員会を中心に、長年にわたりベルマークの収集に取り組んできました。集めたポイントは、28,000点以上になり、同校は車いす1台を購入し、市社会福祉協議会明智支部へ寄付しました。3月3日、贈呈式が行われ、福祉委員長の工藤夢沙志君と同委員の佐々木愛美さんが、同協議会の安藤支部長に手渡しました。安藤さんは「真心のこもった車いすを大切に使います」とお礼のあいさつをしました。

ママの手くすぐったいよ

市内の20～80代の女性で構成するNPO法人みんな子育てドロップスは、3月11日、こども元気プラザで、チャイルドマッサージの講座を開催しました。講師は、市内を中心に活動するベビーマッサージインストラクターの各務志保さんが務め、入園前の3～4歳の子どもを持つ親子11組が参加しました。マッサージは肩、おなか、足と進められ、子どもたちはくすぐったい感触に笑いながら、気持ち良さそうにマッサージを受けました。



楽しそうにマッサージをする親子

花言葉は、「幸を招く」



咲き誇る福寿草

福寿草の花言葉は「幸を招く」。上矢作町達原・大平地区には、約10万本の福寿草が自生しています。

市の天然記念物にも指定されている福寿草は、種子から花を咲かせるのに7年かかるといわれ、地元住民を中心に結成した「福寿草を守る会」が保護・管理活動をしています。

約4,000平方メートルにわたり自生している福寿草は、最盛期には足の踏み場もないほどに、びっしりと咲き誇ります。見ごろは、4月上旬までです。

笑い体操で元気に

中野方ふるさと福祉村「まめに暮らそまい会」(井戸茂利夫代表)が2月28日、「福祉村のつどい」を開催しました。ことしで6回目を迎えるつどいに、今回は関西タレントの辻イトさんを講師に迎え、福祉講演会を計画。辻さんは、自身の子育てと介護の苦労話をユーモアたっぷりの関西弁で紹介。会場の中野方コミュニティセンターでは、訪れた約180人の笑い声が終始響きました。講演後には健康体操が行われ、心身とも元気になる機会となりました。



苦難な人生経験をおもしろおかしく紹介する辻さん

地域の伝統文化に触れる



山岡歌舞伎保存会による歌舞伎の一幕

地歌舞伎や文楽、獅子舞、太鼓などの伝統芸能を一堂に会し披露する、市伝統芸能大会が2月22日、明智かえでホールで開催されました。今回は、会場に約850人が訪れ、市内13地域から210人の出演者の熱演を楽しみました。

またホール前では、観光物産展も同時開催され、大正コロッケやよもぎ大福、へぼご飯、よせ豆腐、ゆべし、五平もちなど地域の伝統食や特産品の販売が行われ、多くの人でにぎわいました。

岩高が82年の歴史に幕

恵那南高等学校岩村校舎(元岩村高等学校)で、3月1日、最後の卒業式と閉校舎式が行われました。参加したのは卒業生30人のほか、保護者や同校明智校舎在校生、旧職員、地元住民ら約300人。

式典では、岩村藩校知新館の時代から受け継がれてきた「温故知新」の精神を後世に伝えるため、額を同校明智校舎と恵那特別支援学校へ贈りました。最後に参加者全員で、岩村高等学校の校歌を斉唱し、82年間の歴史に幕を降ろしました。



「温故知新」の精神を後世に伝える額を持つ卒業生

暮らしが景観に変わる



講師を務めた佐々木葉教授

2月24日、早稲田大学創造理工学部社会環境工学科の佐々木葉教授を講師に迎え、恵那文化センター集会室で、景観講演会が開催されました。この講演会は、恵那市をより良い町にしていけるために、景観を通してわたしたちに何が出来るかを考えようと開催され、約170人が参加しました。

講演で佐々木教授は、「景観を支えるのは地域の人々の暮らし。持続性、経済性、環境面からも考えていくことが大切」と訴えました。

狂歌入東海道 - 「保永堂版」後の広重

中山道広重美術館
特別企画展覧会

会期

4/9(木)～6/14日(日)

4/29(水)～5/6(水)は休まず開館

開館時間 午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで)

観覧料 ▷大人=800円(団体650円)▷小・中・高校生=500円(団体400円)
毎週月曜日(祝日を除く)
祝日の翌日(土日・祝日を除く)
休館。5/11(月)～13(水)は展示替えのため休館

問い合わせ 中山道広重美術館 ☎20-0522



歌川広重
「東海道五拾三次
(狂歌入東海道)日本橋」
1830～1844(天保後期)年
当館蔵

新収蔵品、佐野喜版『東海道五拾三次』のお披露目展示です。このシリーズは画中に狂歌が添えられているため、通称「狂歌入東海道」といわれます。展覧会では同時期につくられた行書東海道と最晩年の絵巻東海道など、各種東海道シリーズも併せてご覧いただけます。

5月3日は「市民の日」

毎月第1日曜日を「市民の日」とし、市民に限り観覧料を無料としています。

文化財を巡る ⑩古代の恵那～二つの古代寺院(その4)

基壇と礎石に往時を偲ぶ～正家廃寺跡

古代恵那郡の中心地と推定される恵那市長島町正家に、8世紀前半ごろに築かれた古代寺院跡が残っています。塔、金堂、講堂の配置は法隆寺と同じで、塔と金堂は、建物の土台である基壇と礎石もよく残っています。昭和52年度から54年度、平成4年度から10年度にかけて発掘調査が行われ、築地塀に囲まれた東西約54メートル、南北約70メートルの伽藍地と東隣にほぼ同じ規模の区画がある大規模な寺院であることが分かりました。また、三彩陶器や塔を飾る風鐸など希少な出土品もあり、古代の地方寺院の在り方を示す貴重な遺跡として平成13年8月13日、国の史跡に指定されました。

正家廃寺跡の近く、正家の集落が阿木川の対岸の東野地区には、おそらく恵那郡の役所(郡衙)や東山道の駅家(大井駅)があったと考えられますが、まだ、はっきりとした位置は特定できていません。寺跡自体も発掘調査が行われたのは全体の50%弱で、全体像が明らかになったわけではありません。現在、地元では、正家寺平歴史の里整備構想研究会を組織し、市と協働で毎月1回のワークショップを開催し、地域のまちづくりの中でこれらの貴重な遺跡をどのように保

存、活用していったらいいのか検討を進めています。

問い合わせ文化課 ☎43-2112(内線217)



発掘調査中の塔跡(平成7年度)

住民が作る地域の資料館

飯地町ふるさと民俗資料館が完成し、3月15日、開館式が行われました。

同資料館の整備は、地域の昔ながらの生活様式や伝統を自分たちの手で守っていこうと、町ぐるみで進められてきました。

展示されている資料は、同町の自治連合会・民俗資料検証会が中心となり収集したもので、各家庭などに残されていた古い道具や農具、小物など、約1,050点もの資料が展示されています。



テープカットをする地元役員と関係者の皆さん

梅露庵の梅、満開に咲く

3月22日、西行法師が庵を結んだと伝えられている長島町永田の梅露庵公園で、梅露庵公園梅まつりが開催されました。西行法師は、新古今集の歌人としても知られおり、会場では西行にちなみ、公園や梅などを題材とした俳句の募集や、西行が修行したと伝えられている観音堂の完成式も行われました。同公園には、しだれ梅約100本が植栽されており、あいにくな雨となりましたが、多くの人たちが満開の梅を楽しみました。



雨の中満開の梅を眺める子どもたち

災害を学べる施設が完成



竣工式であいさつをする可知市長

1、2階を消防本部、3階を防災センターとして利用する市消防防災センターが完成し、3月14日、竣工式が行われました。式典には、消防関係者ら約130人が出席しました。あいさつで市長は「災害時、まず自分の身は自分で守ることが大切。消防防災センターは、市民の安全を守る拠点でもあるが、災害について学ぶ施設でもあります。多くの市民の皆さんが、この施設を利用し、災害を知り、備えをしてほしい」と述べました。

快晴の大正村を快走



大正村の町並みを精一杯駆け抜けるランナーたち

3月15日、恵那南高校をスタートし、明智小学校をゴールとメイン会場に、第25回日本大正村クロスカントリーが開催され、1,785人が参加しました。コースは10マイル、6マイル、2マイルがあり、ランナーは快晴の中、大正村の町並みと自然豊かで起伏の激しい山道を駆け抜けました。

また名物でもある仮装ランナーが出場し、忍者やアンパンマン、ミニーマウスなどに扮し、沿道の声援と会場を盛り上げました。